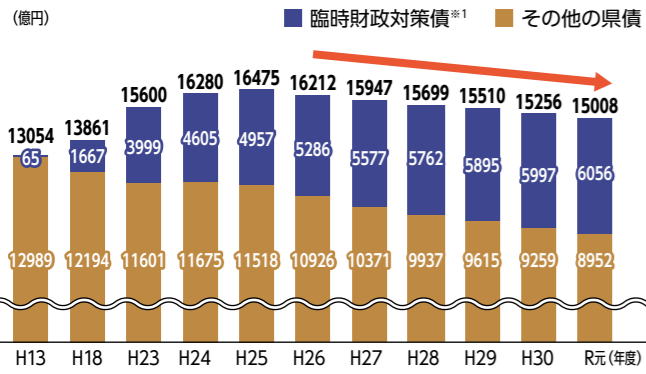
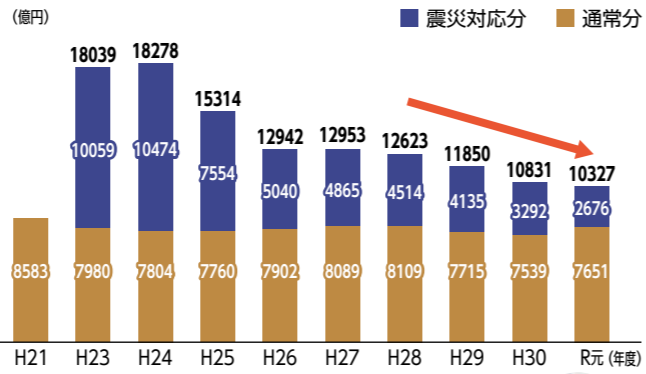


6年連続 借金減



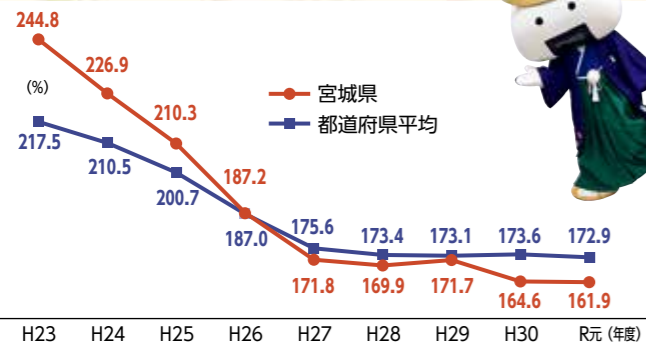
県の借金である県債残高の総額は、6年連続で減少し、長年にわたって、県債の発行を抑え気味にした効果が現れています。一方、臨時財政対策債*1の残高は年々増加しています。
*1 国の財政事情により交付されなかった地方交付税の代わりに発行する県債。後年度に国が交付税を措置して返済する。

4年連続 歳出減



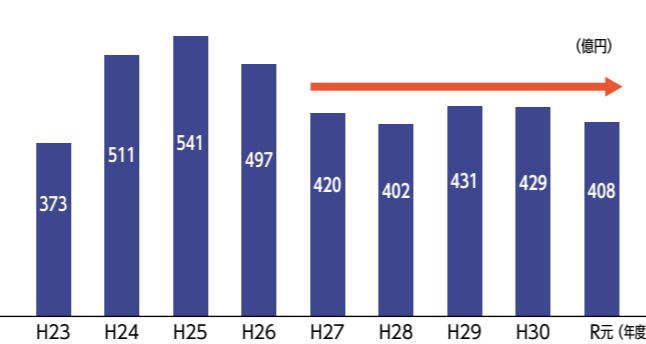
ハード面の復旧・復興事業がピークを過ぎつつあり、震災対応分の歳出が前年度比616億円減少したことなどにより、4年連続で減少しています。

都道府県平均を下回る将来負担



将来、財政を圧迫する可能性の度合いを示す将来負担比率*2は161.9%で、5年連続で都道府県平均を下回っています。
*2 高いほど借金(県債)や将来支払いする可能性のある負担などの割合が大きい。財政状況悪化により財政の健全化が必要となる基準は400.0%。

安定した貯金



県の貯金に相当する財政調整関係基金の残高は、前年度と比べて21億円の減少となったものの、408億円と安定した推移を保っています。

復興需要収束を視野に入れた取り組みと持続可能な財政運営に向けて

復旧・復興事業のハード整備は落ち着きつつある一方、復興の進展に伴い生じた新たな行政課題への対応や、被災地のコミュニティ形成、被災者の心のケアなど、ソフト面には息の長い取り組みが必要です。

また、復興需要の収束を見据えた地域経済の活性化などの県政課題に加え、社会保障関係経費や公共施設の老朽化対応、新型コロナウイルス感染症対策の長期化など、さらなる財政需要が見込まれることから、県財政を取り巻く環境は引き続き厳しいことが予想されます。

令和2年度に終期を迎える「新・みやぎ財政運営戦略」に掲げる歳入確保・歳出削減の取り組みの着実な実施に加え、令和3年度以降の新たな財政運営戦略を策定し、創造的復興の実現と、持続可能な財政運営に向けて、全力で取り組んでいきます。

柔軟な予算配分が難しい状況が続く

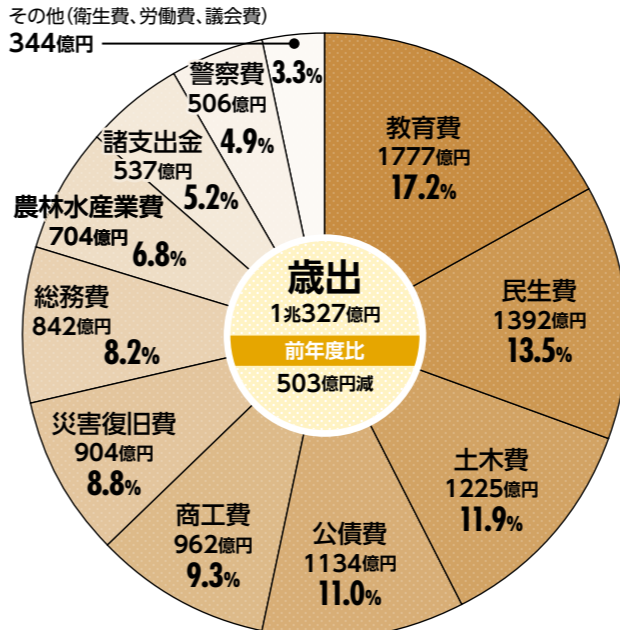
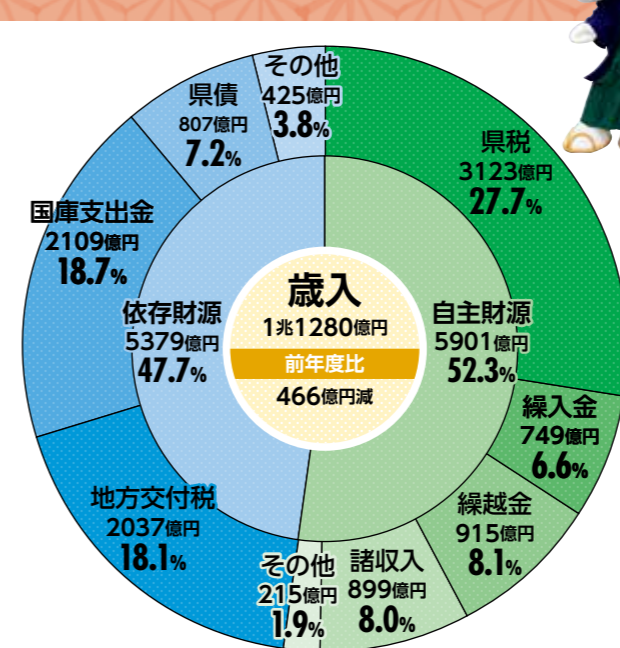
県が自由に使えるお金のうち、人件費や借金返済に充てるお金(公債費)など、支出が避けられない必要な経費が占める割合(経常収支比率)は、97.9%になっています。

7年連続で95%を上回る値で、柔軟に予算を配分することが難しい状況が続いています。

令和元年度の全国平均は93.2%です。

☎ 財政課 ☎022(211)2312

令和元年度の決算額



(注)項目ごとの四捨五入のため、合計が一致していません

令和元年度は下のような施策に特に力を入れました。

- ◆復旧・復興の総仕上げに向けた施策
- ◆令和元年東日本台風や新型コロナウイルス感染症対策
- ◆地域経済の活性化や交流人口の拡大、福祉の充実など県政の課題解決に向けた施策



復興の総仕上げへ進む みやぎの歩み

令和元年度普通会計決算

「宮城県震災復興計画」における「発展期の2年目となった令和元年度は、どの分野で重点的に事業が実施されたのか、県の財政状況はどうなのか。むすび丸と一緒に見ていきたいと思います。」



仙台・宮城観光PRキャラクター むすび丸